

笛吹市探訪

武田氏と笛吹市⑦

— 武田信重と成就院 —

じょうじゅいん

甲斐に武田氏が勢力を張った時代には、有力武士やその家族が亡くなった後、居館（きよかん）を墓所とし、堂院が建てられた。「武田氏と笛吹市」シリーズ①で

紹介した八代町北にある清道院は、武田信成（のぶしげ）の館跡に建てられた信成夫人の菩提を弔うための寺である。

石和町小石和にある成就院も（山号を六角山）、武田

氏十四代甲斐国守護武田信重の館であった。

成就院本堂



信重の父信満は「上杉禅秀（せんしゅう）の乱」で禅秀側についたため幕府の出身機関「鎌倉府」から追討され、甲州市大和で自ら命を絶った。子の信重は甲斐の地を離れて高野山に逃れ仏門に入ってしまった。武田氏の勢いは衰えてしまった。

甲斐国守護武田氏の落ち目を突いて、逸見氏（甲斐源氏）が甲斐国の実権を握り、守護職を要求し



六地藏(成就院境内)



馬頭観世音(成就院境内)

たが、幕府は認めなかった。代々守護職を受け継いだ甲斐の武田氏を据え替える気はまったく無かったと言われる。

信重の逃亡生活（出家生活）は二十年にもなる。この間、幕府は信重を甲斐国の守護に任命したが、鎌倉府の足利持氏（もちうじ）は傲然（ごうぜん）とこれに反対し、將軍足利義持の怒りを買った。義持は将兵を糾合（きゆうごう）して鎌倉府の追討を決定すると、持氏は白旗を挙げて和睦を願い出たのであった。

信重は幕府から手厚い庇護を受けており、守護職まで約束されながら、甲斐へ帰ることを拒否しつづけ、四国の方へ身を隠してしまつたらしい。

逸見氏のあと勢力を伸ばしたのが守護代跡部氏である。しかし甲斐の実権を握っても、他方でひそかに京へ上つて信重に甲斐に帰るよう要請した。信重は跡部氏の本心を慎重に見定め、幕府、信濃国守護小笠原氏ら多くの援助を得て、ついに帰国することになったのであるが・・・

信重は、一説に八代の小山城の城主穴山氏に挟撃されて自殺した、という。国内には武田の主流から分かれた有力氏族が隙を窺っていたのである。詳細は後に譲るが、その信重の墓が成就院の墓地にひっそりと立っており、普段は人影もない。この機会に訪れて、信重の数奇な人生に思いをはせてみてはいかがだろうか。



武田信重墓